

当会では、学会設立 50 周年を機とし、日本水環境学会・将来ビジョンを策定いたしました。本会は非常に幅の広い範囲を研究対象としていますが、将来に向けた学会としてのビジョンを内外に端的に示すために、本将来ビジョンは「未来社会における人間の営みと水環境との調和」を目指した各論（アクションプラン）とそれぞれの説明文から構成されています。将来ビジョン策定に際しましては、研究委員会、そして学会員の皆様から広く忌憚のないご意見をいただくことができました。皆様のご理解とご協力に、この場をお借りして心から御礼申しあげます。

策定から 2 年経ち、この将来ビジョンの実現に向け、学会としての取り組みをさらに強化していく所存です。引き続きご協力を賜りますと幸いです。

問い合わせ先 〒135-0006 東京都江東区常盤 2-9-7 グリーンプラザ深川常盤 201
(公社) 日本水環境学会 (学際連携推進委員会担当) Tel: 03-3632-5351 E-mail: fv@jswe.or.jp

日本水環境学会・将来ビジョン

未来社会における人間の営みと水環境との調和

水環境は、全球的な物質循環を担う重要な媒体によって構成された、人間活動と生態系の根本を支える存在である。持続可能な未来社会に備わるべき要素としての健全な水環境とはどのようなものか。河川、湖沼、沿岸、湿地、海域等、様々な形態があるだけでなく、同じ河川でも地域によっては水質の改善（汚染や汚濁の改善）が重視され、また別の地域では洪水調整機能や親水性、自然浄化・炭素吸収機能が追求されるなど、自然環境の保全・修復と新たな水環境の創出とのバランスのなかで、求められるものは地域によって様々である。未来社会に向けて、人間活動が水環境に及ぼす影響の評価とその低減を通じ、地域ごとにあるべき姿の水環境を保全・再生し、かつ創出していく必要がある。そのためには、地域ごとの気候や災害、そして居住者による「どんな世界に住みたいか」という欲求や、「どんな世界であるべきか」という希求に基づいた人間の営みと水環境との調和を追求しなければならない。この調和の実現には、様々な地域の水環境において、多様な物質がどのような姿で流動・蓄積し、かつ変換され、人間の健康や生態系の健全性に如何に影響を与えているのかを学術的に整理し理解することが重要である。日本水環境学会は、「未来社会における人間の営みと水環境との調和」を将来ビジョンとして設定し、以下に示す 6 つのアクションプランに取り組むことを通じて、その実現を目指す。

アクションプラン 1.

陸上から供給される物質と水環境における
物質変換過程の理解の深化

化学物質濃度・微生物濃度を含む水質データや生物相データの蓄積・共有や水環境モデリングを推進し、物理的、化学的、地学的、そして生物学的過程が複雑に絡み合っている水環境における物質流動・物質変換現象に関する理解を深化させる。

アクションプラン 2.

未来社会の水需要に応える革新的水質制御技術の
開発と持続可能なシステムの構築

持続可能な未来社会において要求される水質変換性能

と運転性能を備える革新的水質制御技術を開発すると同時に、物質・エネルギーフローが最適化された持続可能なシステムを構築する。

アクションプラン 3.

世界の水問題解決への貢献

安全かつ持続可能な水の再生利用など、水に関わるグローバルな問題の解決へ向け、国際学会や国際機関を通じて国際的イニシアチブを発揮する。

アクションプラン 4.

将来の水環境を支える次世代の教育への取り組み

新たなアイデアを生み出して将来の水環境を支える人材育成に寄与するために、教育に関わる最先端技術ならびに学術的知見を積極的に活用した教育教材等の開発に取り組む。

アクションプラン 5.

社会的関心や緊急性の高い
水環境問題の調査研究と情報発信

化学物質・病原体による水環境汚染、疾病に関わる下水疫学調査、半閉鎖性水域の栄養塩管理、プラスチックによる海洋汚染、放射性物質、さらには人類総体の課題である気候変動など、社会的な関心が高い、または緊急性の高い水環境問題について、学会内外の研究者同士が有機的に連携して調査研究を推し進め、得られた科学的知見を速やかに、かつ分かりやすい形で情報発信する。

アクションプラン 6.

異分野および多様な主体との連携・協働による
超学際的取り組みの推進

上記すべてのアクションプランにおいて、これまで異分野とされた分野と積極的に交流するのとあわせて、一般市民や非営利組織、企業、自治体、政府等、社会を構成する多様な主体と連携、協働することで、人の営みと水環境との調和を実現するための超学際分野を能動的に生み出す。